

飛驒古川

(岐阜県飛驒市)

注目ポイント！

- 農村型共存意識が息づくまちづくり・仲間づくり・人づくり
- 「町並み景観デザイン賞」創設による市民自力の町並み再生。



地道な観光振興により、観光客数が増加 66万人 → 80万人
(平成13年) (平成16年)



瀬戸川と白壁土蔵

コラム

飛驒古川のまちづくりの企画主体である青年会議所、観光協会及び「木の国ふるさとづくりの会」のトップを歴任し、30余年のまちづくり活動をリード。調和のとれた町並み整備とともに、「ふるさとに愛と誇りを」をテーマに生活者である地域住民のひとづくりを重視したまちづくりを進め、全国に注目されるまちにした。



観光カリスマ
村坂 有造氏

これまでの経緯

- | | |
|-------------|--|
| 平成 元年(1989) | 観光協会と青年会議所の若手メンバーが「古川町将来構想」を提言する。 |
| 平成 3年(1991) | 日本ナショナルトラストの助成を基に、「飛驒の匠文化館」が完成する。 |
| 平成 4年(1992) | 瀬戸川近辺住民による「瀬戸川を愛沿う会」が発足し、景観・環境維持活動が始まる。 |
| 平成 5年(1993) | 起し太鼓の里整備事業が完了(飛驒古川まつり会館・瀬戸川用水路修景整備)。
住民サイドでまちづくりを企画する「木の国ふるさとづくりの会」が発足する。 |
| 平成 6年(1994) | 木の国ふるさとづくりの会が「まちづくり提言書」を町に提出する。 |
| 平成 9年(1997) | 古川らしい景観づくり推進のため、「飛驒古川ふるさと景観条例」を制定する。 |
| 平成14年(2002) | NHKテレビ小説「さくら」のロケ地となる。 |
| 平成16年(2004) | 「平成の屋台制作検討委員会」の発案による平成の屋台が完成する。 |

正式名は、「飛驒古川」。

主な取り組み

瀬戸川への鯉の放流

昭和43年、河川へのゴミ投棄を減らすため、瀬戸川へ230匹の鯉が放流された。平成4年には、沿川住民による「瀬戸川を愛沿う会」が発足。灯笼や鯉のエサ台設置などに取り組み、観光客への癒し空間を形成。毎年、養鯉業者、ボランティアの協力で、冬場、流雪溝になる瀬戸川から鯉の引越作業を行う等、地道な取り組みにより、現在、鯉は700匹に。



瀬戸川の錦鯉

町並み景観デザイン賞

昭和60年、古川町観光協会は独自に町並みや自然に調和した景観にふさわしい建物などを表彰する「町並み景観デザイン賞」を創設。一般市民が自力で昔風の住宅、店舗を再現し、これまで154軒が受賞。古川らしい町並み景観が維持形成され、平成14年には、NHKテレビ小説「さくら」の舞台に選定された。



平成18年度に表彰された建築物

「平成の屋台」の制作

「飛騨の匠大工の技術的な技と知恵が伝承されない」との危機感から、匠大工等で構成する「平成の屋台制作検討委員会」が中心となって、現存する祭屋台を参考に平成13年から3年をかけて「平成の屋台」を制作。

制作した屋台は、飛騨古川まつり会館に展示され、小学生を対象とした体験乗台を通じ、飛騨の匠の技を次世代に伝承。



平成の屋台「瑞鳳台」

祭文化と伝統の承継

屋台を中心にした台組により、約5万人の入り込み客のある勇壮かつ盛大な飛騨古川祭の文化と伝統を維持。祭に必要な屋台や提灯をはじめ、観光協会が企画した「三寺まいり」に欠かせない和ろうそく等、市民の手により飛騨の匠の技を今に承継。



飛騨古川祭



多くの観光客が訪れる「さくら」の舞台となった和ろうそく店

問い合わせ先

○ 飛騨市役所 商工観光課 ・ 古川町観光協会

Tel : 0577 - 73 - 2111 (代) <http://www.city.hida.gifu.jp/>